



2016年度第3四半期 決算説明資料

2017年2月2日
三菱重工業株式会社

CFOの小口です。

2016年度第3四半期決算の概要について説明します。

I. 2016年度第3四半期決算実績

・サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9

II. 2016年度業績見通し

・業績見通しサマリー	12
・セグメント別内訳	13

III. 補足資料

補足資料	15-20
------	-------

I . 2016年度第3四半期決算実績

第3四半期決算実績 サマリー



(単位:億円)

	'15-3Q累計 (利益率)	'16-3Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受注高	26,309	26,564	+254 (+ 1.0%)
売上高	28,326	26,942	△ 1,383 (△ 4.9%)
営業利益	(6.5%) 1,853	(2.5%) 684	△ 1,169 (△ 63.1%)
経常利益	(6.2%) 1,748	(1.9%) 509	△ 1,238 (△ 70.8%)
特別損益	△ 699	△ 197	+501 -
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.9%) 533	(△0.4%) △ 112	△ 646 -

EBITDA	(10.9%) 3,101	(7.6%) 2,055	△ 1,046 (△ 33.7%)
--------	---------------	--------------	-------------------

'16-3Q累計特別損益 (△197)の内訳	【特別利益】	【特別損失】
	・投資有価証券売却益 46	・客船事業関連損失 △164 ・投資有価証券評価損 △59 ・事業構造改善費用 △19

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、ほぼ前年同期並みの2兆6,564億円となりました。円高による減少が多少ありましたが、ユニキャリアの統合による増加もあり、全体としては微増となっています。

売上高は、前年同期から1,383億円減少し、2兆6,942億円となりました。当社グループではこれまで、受注が売上に対し2年程度先行する関係となっていますが、昨今は受注から売上計上までに要する期間が2.5年ないし3年程度に伸びている状況です。このため、当初の想定よりも売上が若干伸び悩んでいます。

営業利益は、前年同期から1,169億円減少し、684億円となりました。5兆円規模に向けて順調に受注を積み上げてきた中、円高が進みながらも、変動費率のレベルは従来と変わらないなど、一定のコスト圧縮は実現できていると考えておりますが、一方、売上高の計上が全体的に遅れていることで、売上高と固定費の関係が一時的にアンバランスな状態になっていることが影響しているものと分析しています。

経常利益は、前年同期から1,238億円減少し、509億円となりました。第2四半期末時点より為替相場が円安となったことから、為替差損益等が改善し、第2四半期決算より経常利益が持ち直す結果となりました。

特別損益は、前年同期から約500億円改善し、マイナス197億円となりました。このうち客船事

業関連損失については、第2四半期決算の段階で164億円を計上しましたが、現在は工事が順調に進んでおり、引渡に向けた最終段階に入っています。非常に複雑な船であるため、今後も想定外の事態が生じる可能性を否定しきれないものではありませんが、現時点では予定どおりに進捗しており、大きな問題は生じないものと考えております。

これらを踏まえ、親会社に帰属する当期純利益(以下、純利益)は、前年同期から646億円減少し、マイナス112億円となりました。

三菱自動車工業(株)の持分法投資損失を1Qに188億円計上いたしましたが、この損失については税効果を認識できず、純利益にそのまま影響しています。かかる特殊要因がなかったと仮定した場合、純利益はプラス100億円程度のイメージであったものと考えられます。

稼ぐ力を表すEBITDAは、前年同期から1,046億円減少し、2,055億円となりました。

第3四半期決算実績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'15-3Q 累計	'16-3Q 累計	増減	'15-3Q 累計	'16-3Q 累計	増減	'15-3Q 累計	'16-3Q 累計	増減
エネルギー・環境	9,165	10,582	+1,417	10,385	9,932	△ 453	691	445	△ 245
交通・輸送	4,369	3,252	△ 1,116	4,057	3,605	△ 452	445	△ 283	△ 728
防衛・宇宙	2,155	1,910	△ 245	3,261	3,101	△ 159	193	191	△ 1
機械・設備システム	10,454	10,696	+241	10,429	10,154	△ 274	553	378	△ 175
その他	1,209	1,179	△ 30	1,133	1,197	+63	70	65	△ 5
消去または共通	△ 1,044	△ 1,056	△ 11	△ 941	△ 1,048	△ 107	△ 101	△ 113	△ 12
合計	26,309	26,564	+254	28,326	26,942	△ 1,383	1,853	684	△ 1,169

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

セグメント別の状況について説明します。

まず受注高です。エネルギー・環境セグメントは比較的堅調に推移し、前年同期から1,417億円増加の1兆582億円となりました。一方、交通・輸送セグメントでは、民間航空機Tier1事業が新旧機種の間境期に差しかかっている影響や、商船で苦戦していることもあり、前年同期から1,116億円減少し、3,252億円となりました。そのほかは、前年同期とほぼ同じような状況で推移しています。

3ページで説明しましたとおり、受注から売上まで計上時期の間隔が伸びていることなどにより、セグメント別の売上高も減少しています。営業利益では、事業別に見た場合にはPMI(Post Merger Integration)の遅れなど様々な要因が影響していますが、マクロで見ると、固定費の規模と売上規模のアンマッチが、営業利益の悪化という形で表れています。そうした影響が最も顕著に表れたのが交通・輸送セグメント、次いでエネルギー・環境セグメント、さらに機械・設備システムセグメントです。これについては経営の課題として認識しており、その対策について「2015事業計画推進状況」の中で説明いたします。

第3四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'15年度末	'16-3Q末	対前年度末 増減
売上債権	12,056	11,510	△546
たな卸資産	13,359	15,008	+1,648
その他流動資産	9,881	10,517	+636
固定資産	12,735	12,539	△195
投資等	6,996	7,469	+473
資産合計	55,030	57,046	+2,016
買入債務	8,606	7,668	△937
前受金	7,497	6,909	△588
その他	8,401	8,347	△53
有利子負債	10,521	14,067	+3,545
純資産	20,003	20,054	+50
(うち自己資本)	(16,797)	(16,796)	(+0)
負債・純資産合計	55,030	57,046	+2,016

コマーシャルペーパー +3,070他

配当、純損失 他 △572
その他の包括利益 +571
(その他有価証券評価差額金 他)

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

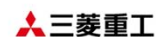
5

貸借対照表について説明します。

総資産は、前年度末から2,016億円増加し、5兆7,046億円となりました。増加しているのは主にたな卸資産です。現在、受注が比較的堅調な一方、売上計上が遅れていることなどにより、たな卸資産が積み上がったものです。当社では、たな卸資産の圧縮をはじめとしたバランスシートの効率化を進めていますが、現時点ではこのような状況にあります。

この増加部分は、流動性を高める観点から、コマーシャルペーパーで一時的に資金を調達していますが、年度末にかけて返済、解消するものと考えています。

第3四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	'15-3Q末	'15年度末	'16-3Q末	対前年度末 増減	'16年度 見通し
自己資本比率	31.3%	30.5%	29.4%	△ 1.1pt	-
有利子負債残高 (単位: 億円)	12,757	10,521	14,067	+3,545	9,500
D/Eレシオ	0.61	0.53	0.70	+0.17	-

キャッシュ・フロー

(単位: 億円)

	'15-3Q 累計	'16-3Q 累計	増減	'16年度 見通し
営業CF	△ 1,127	△ 2,619	△ 1,492	-
投資CF	△ 1,297	△ 1,319	△ 22	-
フリーCF	△ 2,424	△ 3,939	△ 1,514	+1,000

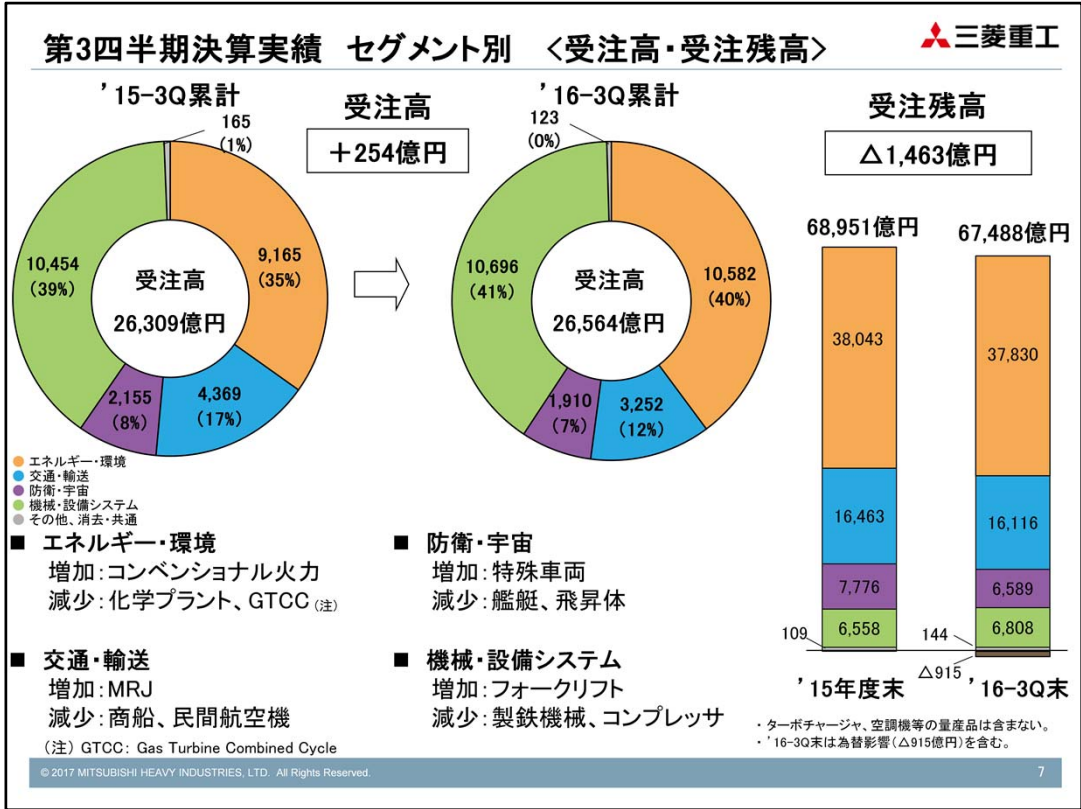
© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

主要財務指標およびキャッシュ・フローについて説明します。

自己資本比率については利益が若干伸び悩んでいることなどから、前年同期より1.1ポイント低下し、29.4%となりました。有利子負債も、5ページで説明しました一時的なバランスシートの膨らみによって増えておりますが、通期の見通しでは、この部分のキャッシュ・フローは回収できると考えており、9,500億円程度に戻ると見込んでいます。D/Eレシオは0.70となっています。

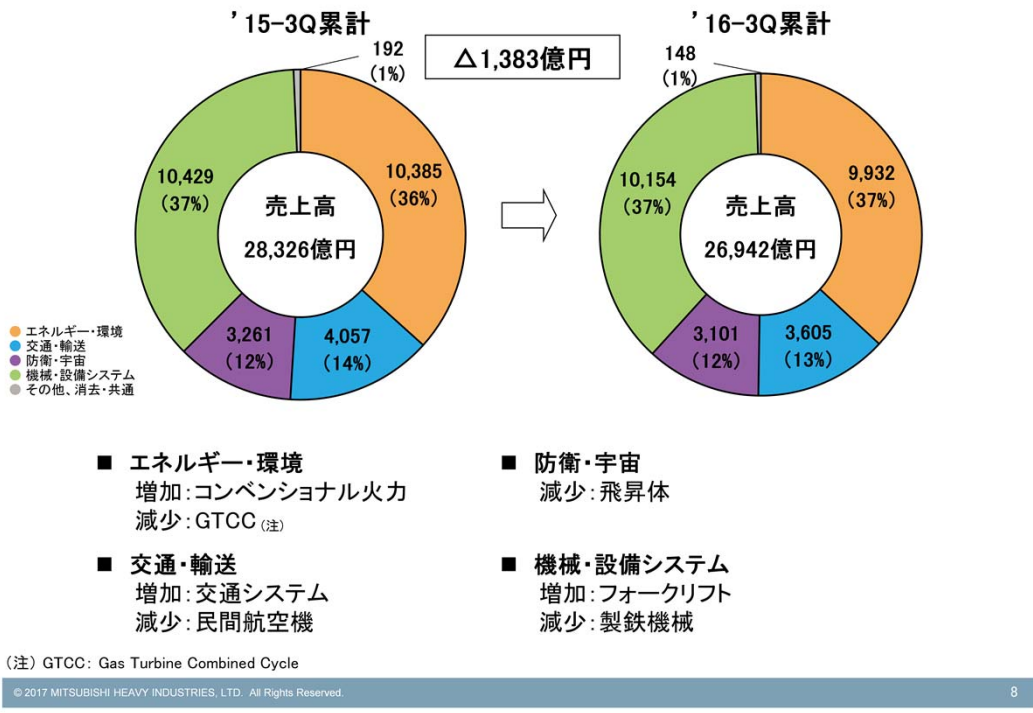
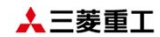
キャッシュ・フローについては、営業利益の伸び悩みや、一時的にバランスシートが膨らんだことに伴い、マイナスが拡大しています。当社の例年の傾向としては、たな卸資産が増える第3四半期末はキャッシュ・フロー上の底にあたり、通常、年度末にかけて引渡が進むことにより、これが回復していきます。前年同期に比べフリーキャッシュ・フローの動きが悪化がありますが、アセットマネジメント、資産流動化などの効果も含め、通期見通しのプラス1,000億円を達成したいと考えています。



セグメント別の状況について説明します。

受注高はほぼ前年同期並みですが、セグメント別の内訳では、エネルギー・環境セグメントが前年同期比で増加、一方で、民間航空機Tier1事業で新旧機種の間境期を迎えている交通・輸送セグメントは前年同期比で減少しています。防衛・宇宙セグメントはほぼ横ばいでした。機械・設備システムセグメントは、フォークリフトでユニキャリアの統合による増加があった一方、世界的な景気低迷を受け、インフラのベースになる製鉄機械、コンプレッサなどで少々苦戦していることから、セグメント全体では前年同期と同じレベルになりました。

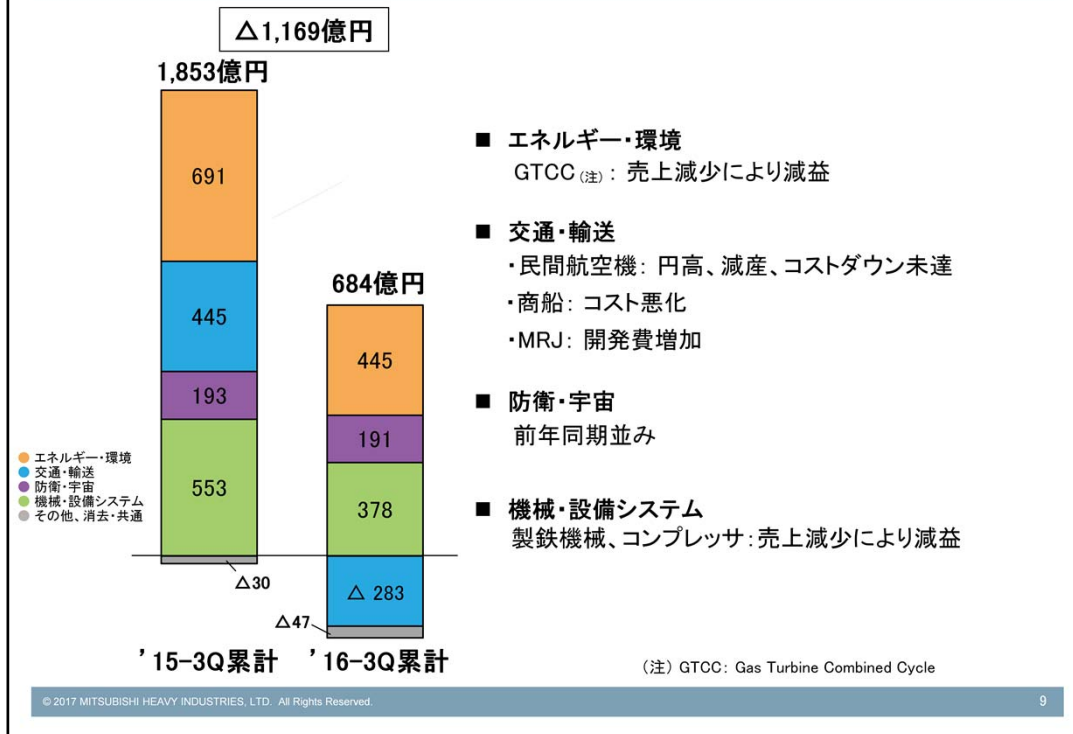
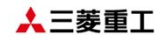
第3四半期決算実績 セグメント別 <売上高>



売上高のセグメント別状況について説明します。

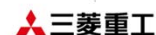
エネルギー・環境セグメントでは、コンベンショナル火力が増加している一方、GTCCが減少しています。交通・輸送セグメントでは、交通システムは堅調ですが、Tier1事業で端境期を迎えるため民間航空機が減少しています。防衛・宇宙はほぼ前年同期並み。機械・設備システムセグメントは若干減少しています。

第3四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>

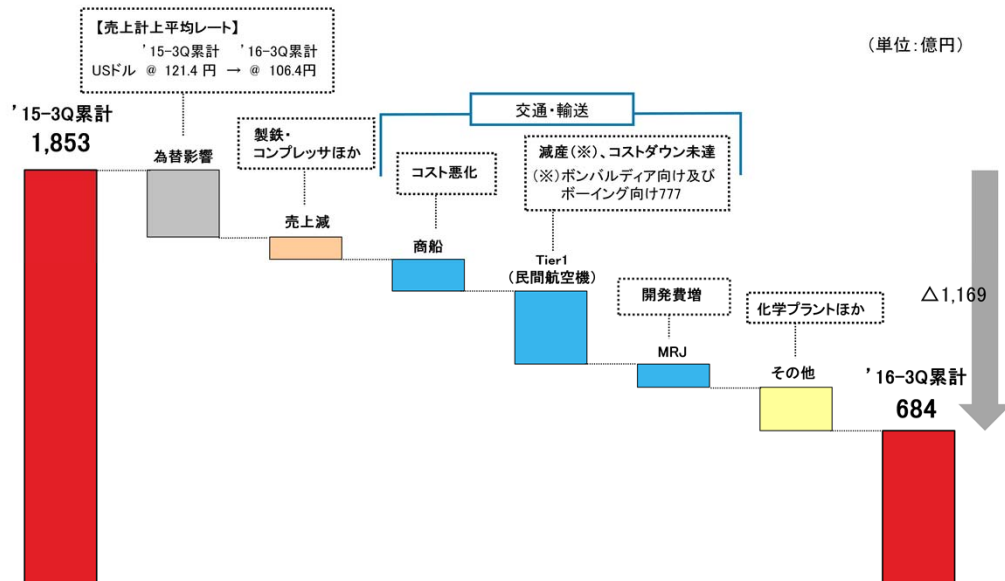


営業利益では、これまでご説明した事業規模と固定費とのアンバランスが、すべてのセグメントでネガティブに影響しています。事業規模が安定している防衛・宇宙セグメントはほぼ前年同期並みでしたが、事業規模拡大を目指す他セグメントで売上が伸び悩んでいることから、全般的に営業利益が低下しています。特にそれが顕著に表れているのが交通・輸送セグメントです。国内で製造した製品を輸出するという事業形態のため為替の影響を受けるほか、事業規模拡大の停滞により、営業損失が発生しています。なお、この中には、MRJ開発費の増加という要因も含まれています。

第3四半期決算実績 <営業利益>



《営業利益増減要因》



© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

10

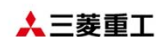
営業利益の増減要因について説明します。

売上計上には前月平均TTMLレートを適用していますが、12月の売上レートは11月の平均レートを適用しているため、第3四半期決算時点では引き続き円高の影響を受けています。なお、1月、2月の売上レートは12月、1月の各月平均レートを適用することになりますので、為替による影響は持ち直してくるものと考えています。他方、事業規模と固定費のアンバランスという点では、例えば製鉄機械、コンプレッサや、民間航空機Tier1事業などに影響が表れています。この2つの大きな要因に加え、個別の事象としてMRJの開発費増加があり、営業利益が減少している状況です。

Ⅱ. 2016年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。従いまして、この業績見通しのみにより投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2016年度業績見通し サマリー



(単位:億円)

	'15年度実績 (利益率)	'16年度見通し (利益率)	対前年度増減 (増減率)	
受注高	44,855	48,000	+3,144	(+7.0%)
売上高	40,468	40,000	△ 468	(△1.2%)
営業利益	(7.6%) 3,095	(6.0%) 2,400	△ 695	(△22.5%)
経常利益	(6.7%) 2,725	(4.5%) 1,800	△ 925	(△33.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.6%) 638	(2.5%) 1,000	+361	(+56.7%)
ROE	3.7%	5.8%	+2.1pt	—
EBITDA	(11.9%) 4,796	(10.5%) 4,200	△ 596	(△12.4%)
フリーCF	75	1,000	+924	—
配当(1株あたり)	12円 (中間6円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)	<small>【未確定外貨】</small> 2億ドル (前回:20億ドル) 1ドル = 110円 (前回:100円) <small>【前提為替レート】</small> 4億ユーロ (前回: 5億ユーロ) 1ユーロ = 120円 (前回:115円)	

前回公表値(2016年10月31日)より変更なし

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

ここまでご説明したファンダメンタルズを基に、通期業績見通しについて説明いたします。

受注高については、事業ごとに多少の増減の可能性はあり得ますが、4兆8,000億円という前回公表値は達成できるものと考えています。

売上高については、期初の公表値4兆4,000億円から下振れる見込みですが、前回公表値4兆円に対しては近い水準で実績が推移すると考えています。

営業利益については、期初見通しからの売上高減少に伴う限界利益の減少や、円高の影響などから、前回公表値の2,400億円になるものと考えています。

売上高はほぼ固まっている状況ですので、今後変動が生じるとすれば、為替による影響が中心になると考えています。

なお、現在推進中のアセットマネジメント、資産流動化等により第4四半期に特別利益を計上する予定であり、それを加味した上で純利益は前回公表値の1,000億円になるものと考えています。

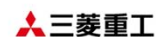
フリーキャッシュ・フローについては、6ページで説明しましたとおり、この時点ではマイナスの状態ですが、第4四半期に営業キャッシュフローの好転が見込める上、アセットマネジメント等による追加の資金獲得も予定していますので、通期では1,000億円になるものと考えています。

こうした状況を踏まえ、配当については1株あたり12円/年の予定を据え置いています。

ただし、この通期見通しには米国サザンカリフォルニアエジソン社サンオノフレ原子力発電所 (SONGS: San Onofre Nuclear Generating Station) の取替用蒸気発生器供給契約に係る仲裁の影響は含まれていません。

前提為替レートについては、実勢レートが円安側に振れていますので、前回の見通しでは1ドル=100円、1ユーロ=115円としていたところ、今回の見通しでは1ドル=110円、1ユーロ=120円としています。前提為替レートを円安側に変更したものの、弱含みの要素もあることから、通期の業績見通し値は据え置いております。

2016年度業績見通し セグメント別内訳



(単位:億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'15年度実績	'16年度見通し	対前年度増減	'15年度実績	'16年度見通し	対前年度増減	'15年度実績	'16年度見通し	対前年度増減
エネルギー・環境	20,050	21,000	+949	15,427	15,500	+72	1,546	1,600	+53
交通・輸送	6,071	6,000	△ 71	5,485	5,000	△ 485	545	△ 250	△ 795
防衛・宇宙	4,477	4,000	△ 477	4,850	4,500	△ 350	257	280	+22
機械・設備システム	13,925	16,000	+2,074	14,323	14,500	+176	800	850	+49
その他	1,628	2,000	+371	1,773	1,600	△ 173	126	120	△ 6
消去または共通	△ 1,298	△ 1,000	+298	△ 1,392	△ 1,100	+292	△ 181	△ 200	△ 18
合計	44,855	48,000	+3,144	40,468	40,000	△ 468	3,095	2,400	△ 695

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

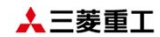
受注高、売上高、営業利益の通期見通しをセグメント別に示しています。

交通・輸送セグメントは収益を十分回復しきれず、営業利益がマイナス250億円となる見通しである点が特徴だと考えます。

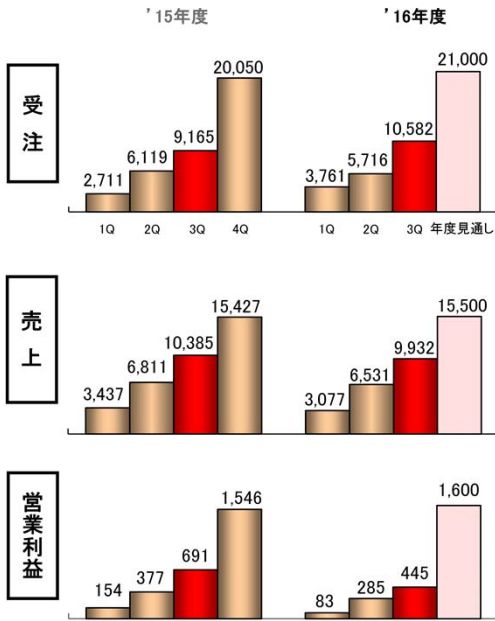
以上で、2016年度第3四半期決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第3四半期決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 +1,417億円の増加

増加…コンベンショナル火力
減少…化学プラント、GTCC (注)

【ガスタービン受注台数】

'15-3Q累計：12台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	1	6	1	2	10
中小型	-	1	-	1	2
合計	1	7	1	3	12

'16-3Q累計：14台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	4	6	2	1	13
中小型	-	1	-	-	1
合計	4	7	2	1	14

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'15-3Q末	40	27	67
'15年度末	42	35	77
'16-3Q末	38	24	62

売上：対前年同期 △453億円の減収

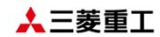
増加…コンベンショナル火力
減少… GTCC

損益：対前年同期 △245億円の減益

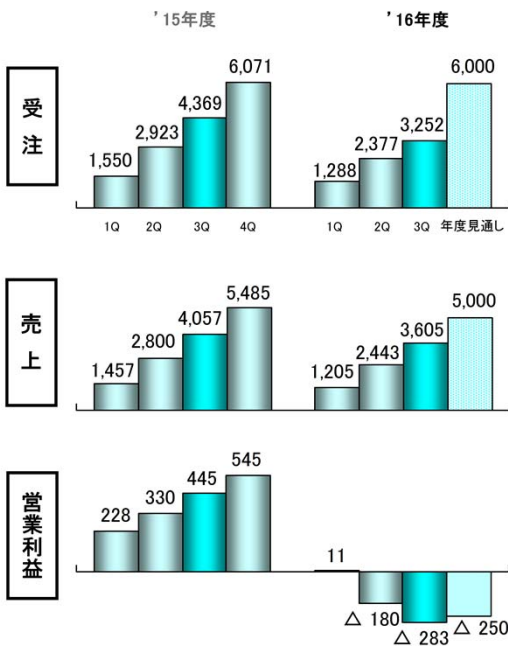
GTCC：売上減少により減益

(注) GTCC: Gas Turbine Combined Cycle

補足資料① 第3四半期決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 △1,116億円の減少

増加…MRJ
減少…商船、民間航空機

【商船 受注隻数】

'15-3Q累計：11隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:5隻、4Q:5隻)

'16-3Q累計：6隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:0隻)

【商船 契約残隻数】34隻

(LNG船 10隻、LPG船 7隻、巡視船 3隻 他)

売上：対前年同期 △452億円の減収

増加…交通システム
減少…民間航空機

【B777 引渡機数】

'15-3Q累計：80機 (1Q:28機、2Q:27機、3Q:25機、4Q:27機)

'16-3Q累計：70機 (1Q:27機、2Q:24機、3Q:19機)

【B787 引渡機数】

'15-3Q累計：92機 (1Q:32機、2Q:31機、3Q:29機、4Q:34機)

'16-3Q累計：92機 (1Q:36機、2Q:31機、3Q:25機)

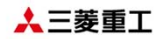
損益：対前年同期 △728億円の減益

民間航空機：円高、減産、コストダウン未達

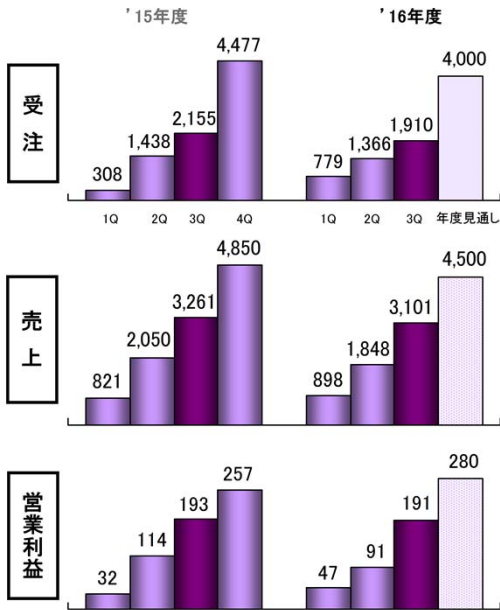
商船：コスト悪化

MRJ：開発費増加

補足資料① 第3四半期決算実績 <防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)

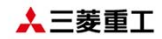


受注 : 対前年同期 △245億円の減少
 増加…特殊車両
 減少…艦艇、飛昇体

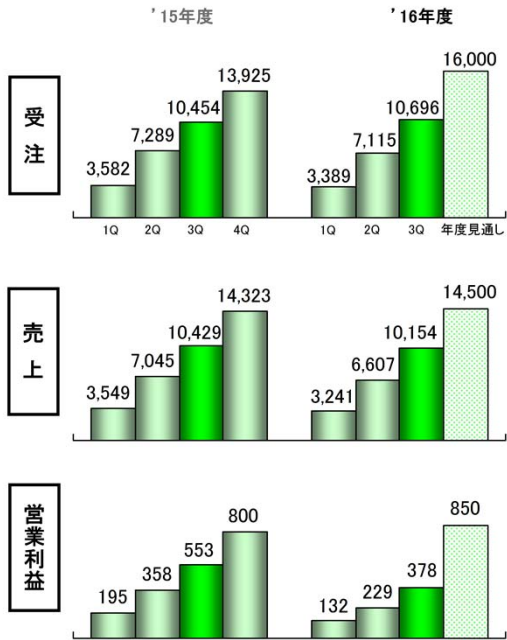
売上 : 対前年同期 △159億円の減収
 減少…飛昇体

損益 : 対前年同期 △1億円の減益
 前年同期並み

補足資料① 第3四半期決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 +241億円の増加
 売上：対前年同期 △274億円の減収
 増加…フォークリフト
 減少…製鉄機械、コンプレッサ

損益：対前年同期 △175億円の減益
 製鉄機械、コンプレッサ：売上減少により減益

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'15-3Q累計	'16-3Q累計	'16年度 見通し
研究開発費	917	988	1,500
減価償却費	1,161	1,251	1,700
設備投資	1,164	1,353	2,000

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'15-3Q累計	'16-3Q累計
販管費	4,010	4,201

3. 為替レート

	'15-3Q累計	'16-3Q累計
USドル(円/USドル)	121.4	106.4
ユーロ(円/ユーロ)	134.9	117.3

4. 海外地域別売上高

(単位:億円)

	'15-3Q累計	'16-3Q累計
アジア	5,086 (18%)	4,468 (17%)
北米	5,718 (19%)	4,813 (18%)
欧州	2,620 (9%)	3,038 (11%)
中南米	1,064 (4%)	767 (3%)
中東	767 (3%)	820 (3%)
アフリカ	766 (3%)	887 (3%)
大洋州	215 (1%)	241 (1%)
合計	16,239 (57%)	15,036 (56%)

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'15-3Q累計	'16-3Q累計
日本	売上高	20,984	20,358
	営業損益	1,520	459
北米	売上高	3,855	3,417
	営業損益	107	57
アジア	売上高	2,865	2,692
	営業損益	242	223
欧州	売上高	2,681	2,721
	営業損益	△ 34	△ 58
その他	売上高	781	701
	営業損益	18	2
消去または共通	売上高	△ 2,841	△ 2,948
	営業損益	-	-
合計	売上高	28,326	26,942
	営業損益	1,853	684

MOVE THE WORLD FORWARD

**mitsubishi
heavy
industries
group**

© 2017 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.